

なんたん

No. **22**

農業委員会だより

平成25年10月号



**未来の担い手が
稲刈体験!!**



農業委員会のうごき	2~3
地域農業を支える	4~5
食と農業 その11	6
まちかど通信	7
なんたんあっちこっち	8
委員ぶらり旅	8
編集後記	8

殿田小学校5年生の皆さんが、5月に植えた稲の刈取り学習を行いました。

(農)大向宮農組合の圃場にて

発行 南丹市農業委員会

編集 南丹市農業委員会広報委員会

TEL.0771-68-0067 FAX.0771-63-0654

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

E-mail: co-nougyo@city.nantan.kyoto.jp

URL: <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

農業委員会のうごき

視察研修を実施しました

8月29日に舞鶴市の「舞鶴ふるるファーム」と「名水の里杉山」で見学・研修を行いました。舞鶴ふるるファームは、約4haの敷地に滞在型市民農園や貸し農園、レストラン、農産物・海産物の直売所などを設置した農業公園です。

舞鶴ふるるファームでは、舞鶴市農業委員会から、耕作放棄地や有害鳥獣に対する農業委員会の活動状況の説明とともに移住者支援活動について説明を受け、相互に問題を出し合い議論を深めました。

また、ふるるファームを運営する（株）農業法人ふるるの代表者から、設立経緯やアグリビジネス（六次産業化）の拠点とし地域振興を図ることを重要な目的として運営していることなどの説明を受けました。

名水の里杉山は、山間地の過疎集落（15戸51名）ながら貸し農園の運営や清酒、米粉パンの開発など知恵を出し合い活動を進めている集落です。

名水の里杉山では、その活動について経緯や今後新たに展開しようと考えられている取組について説明を受けました。

代表者の「農業は攻めないと守れない」という言葉には、これまでの努力が実った実感があふれていました。



▲名水の里杉山で説明を聞く



▲農業法人ふるるの代表者から、設立経緯や運営説明を受けました

荒廃農地の発生・解消状況に関する調査を実施します

11月11日（月）から15日（金）の5日間、集落ごとに16班体制で農地の利用状況調査を実施します。

主に平成24年度の耕作放棄地を対象地としますが、無断転用や遊休荒廃農地の早期発見や農地をめぐる現状把握を行い、早期改善に向けて農家の理解と協力を求めることとしています。調査に伴い、必要に応じて農地に立ち入ることがありますので予めご了承ください。

農地の貸し借りは農地法で規制されています

法的な賃貸借契約手続きを行わず、お互いの承諾だけで農地の貸し借りをすると、契約そのものに効力がなく法律の保護も受けられません。

農地の権利設定等については、必ず法的な手続き（農地法第3条許可申請・利用権設定申出書の提出）をお願いします。

利用権設定とは、簡易な手続きで農地の貸し借りをを行うものです。

◎貸し手のメリット・・・耕作できない時にも耕作放棄地にせず農地を守ることができ、貸した農地は期限がくれば返還されます。離作料の支払いも不要です。

◎借り手のメリット・・・契約期間中は安心して耕作ができ、長期的に経営の規模拡大と安定化が図れます。期間を更新して継続耕作も可能です。

農地の無断転用は違法です！

農地を農地以外の目的（住宅、資材置場、駐車場など）に利用するためには手続きが必要です。

- 市街化区域内の場合は届出
 - それ以外の区域の場合は申請
- が必要です。



違反すると3年以下の懲役または300万円以下の罰金（法人については1億円以下の罰金）が科されることがあります。

（農地のことなら農業委員会にご相談を！）

新しい農業・農村・農政の動き、農業経営と経済、暮らしの情報があつて盛りだくさんの情報誌、「全国農業新聞」をぜひお読みください。



申込みは、
南丹市農業委員会事務局
または各支所産業建設課まで
Tel 0771-68-0067

発行所	全国農業会議所
発行日	毎週金曜日
購読料	月額 600円

無断転用はアカン!





▲がんばろう会の皆さん

地域農業を支える

あの人この団体!

地域農業の再生を目指して、人と農地をテーマに、個人やグループで力強く農業を営む農業者シリーズを掲載します。今回は、日吉町内で精力的に生産活動されている方々を紹介します。
(取材：塩貝孝司委員)

集落で乾燥野菜の

商品化を模索

日吉町胡麻

がんばろう会代表 中村有光さん

日吉町胡麻の地に新規就農して12年。京野菜「みぶ菜」のハウス栽培でスタートし「農業の事なら何でも挑戦してやろう」との意気込みは今も変わりません。コシヒカリ栽培、黒豆栽培、丹波栗の加工、そして今回の乾燥野菜の商品化の取り組みへと夢が広がります。

農産物は、常に価格の不安定要素が付きますといいますが、収穫遅れの規格外品、暴落時の緊急対策の手段として、乾燥野菜の商品化によりある程度出荷調整が図れるのが利点です。

また、離乳食野菜として欠かすことの出来ない南瓜、人参など、学校給食用の食材として、災害時の緊急対策用保存食として、付加価値をプラスした販路拡大が図れればと思っています。丹波地方古来の気候風土に恵まれて育てられた数々の産物を、食のニーズの変化とともに野菜を使った菓子、ケーキ類への進出が見られ、食の関心が高まってきた今が新しい事業開発の

チャンスかもしれません。こうした新しい開発を進めるためには、「生産・製造・販売」の三位一体となった事業展開が必要であると共に、商品化して安定した販路を見つけ出すためには、課題も多く時間がかりますが、農業経営を目指す者の試練でもあり努力するのみであると思っています。



乾燥野菜ができるまで



▲切った野菜を薄く均等に並べます



▲収穫したみぶ菜をそろえて切っています



▲乾燥機にかけます



▲袋つめに商品が出来あがり

みぶ菜のパウンドケーキ

日吉町胡麻 中村佳代子さん提供

【材料】 1本分

- ホットケーキミックス…………… 200g
- バター…………… 80g
- 砂糖…………… 100g
- 卵 (Mサイズ) …………… 3個
- 牛乳…………… 大さじ2
- みぶ菜の粉末…………… 40~50g

【作り方】

- ①バター、砂糖をクリーム状になるまで練り、卵を加えて良く混ぜ合わせる。
- ②①にホットケーキミックスと牛乳を加えてよく混ぜ生地を作ります。
- ③パウンドケーキ型にクッキングシート（油でも可）を敷き生地を流し入れる。
- ④180℃のオーブンで30分~40分焼く。



*南瓜の粉末を使っても同じように作れます。

このほかにも
みぶ菜ごはんでおにぎり お味噌汁にも!

日吉町胡麻 塩貝美千穂さん提供



みぶ菜の納豆もち

日吉町殿田
吉田陽子さん提供



【作り方】

もちがつき終わる少し前に、みぶ菜の粉末を入れる。
つき終わったら1ヶ分150gをとり、楕円形に開け、納豆を大さじ1杯強入れて二つ折りにする。



▲いもほりを楽しむ親子



食を支える あの人この団体!

南丹市農業委員会は、農業の果たす役割と、食の大切さを多くの市民の方に知っていただくために、食と農業に係わる人や団体のシリーズを掲載しています。

(取材：吉田陽子委員)



◀大きないもを握りました

殿田子ども会 いもほり体験と料理講習

日吉町殿田子ども会13人が、(農) 大向営農組合の農園で、いもほり体験をしました。

お母さん達も出席して、蒸し暑い日でしたが親子で頑張りました。

「おいもは土の中でどうして出ているのか?」と尋ねました。1人の子どもから、「たてに出来る」と答えが返ってきました。

掘ってみると大変大きいおいもで「すごい!」と感動していました。

終わりに感想を聞くと、「楽しかった!」「ありがたう!」の言葉にほっとしました。

いもほりの後は、殿田交流センターに移動して、南丹市食生活改善推進委員の指導のもとに、「おやこの食育教室」を開き、収穫したさつまいもを使った料理「ゴロゴロサラダ」を作りました。

あっさりした口あたりのよい味で、美味しく頂きました。子どもたちは、満足感であふれていました。



▲さつまいものゴロゴロサラダ



▲おやこの食育教室



▲作った料理を美味しく頂きました



▲親子で料理を作りました

まちかど通信

休耕田を活用して 子どもたちと 野菜や花を育てよう

八木町八木

秋田 武さん

八木小学校の隣接する所に長い間、休耕田がありました。この田をお借りして、児童達と地域のボランティア団体「城山会」の人々と土に触れて、植物の生育の観察を楽しんでもらいたいと思っていました。八木小学校にご相談したところ、教室での授業と共に野菜栽培の実践も必要だということになり、取

り組むことになりました。今年で3年目となり、徐々に定着してきてきました。毎年子どもたちが希望の品種を選び、春先にはトマト・胡瓜・茄子・



▲夏野菜の種蒔きをしている子どもたち

ピーマン・ニガウリなど夏野菜の種子から種蒔きします。畑に定植、支柱の作業もして、真赤に熟したトマト、みずみずしい濃黒紫色でツヤのある茄子収穫など、子どもたちは自分の手で栽培した野菜を美味しく食べられて、野菜類の好き嫌いが無くなった児童もいます。城山会の人々も若い子どもたちと会話が出来た喜びと、元気なパワーを貰い若返ったと笑顔でした。地域の児童と地元の方々と関

使って料理をして、美味しく食べるのが楽しみです。秋野菜の大根の種蒔きは、1年生から3年生が小さなもみじのような手で1粒1粒「早く大きくなってね。」と声をかけて種蒔きしました。早く長い大根が収穫できる時を楽しみに額に汗をかき作業をしました。



▲景観作物も栽培

連をもつていただき、より一層深い絆が出来た場を提供いただいた先生方に感謝の思いです。これから夏に植えた、サツマイモ・大豆・小豆が収穫の楽しみ。収穫したいろいろな野菜を

6年生は、お正月用の葉牡丹を畑に定植して栽培し、生育して美しく着色した株をプランターに植え替え、市役所八木支所など公共施設にお届けする計画です。子どもたちが地域の人々と親しくなってもらい、出会ったときはお互いに「こんにちは」と声を掛け合って、明るい町に一步一步近づいていけばと思います。

(取材 小川幸雄委員)



▲とうもろこしに水を与える子どもたち

なんたん

あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちこちでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、あっちこっちのできごとを紹介します。



西光寺では、毎年8月28日の宵大師の法会と23日の地藏盆の両夜に、浴衣姿に鐘と太鼓という素朴ないでたちで、六斎念仏踊りが行われます。

念仏で始まり念仏で終わると言われ、前奏の「六鼓」と後奏の「一花振」に分かれています。

そもそも、六斎念仏踊りは平安時代の中頃、空也上人が庶民に念仏を唱えることを教えて京都の町々を巡ったことに始まると言われていますが、西光寺では約280年前に始まったと伝えられています。

戦後しばらく中断されていたものを、六斎念仏保存会を結成して復活し現在に至っています。

こうした努力が実り、昭和60年には、京都府無形文化財に指定されています。(取材 市原松司委員)



八木町美里の西光寺六斎念仏踊り



日吉町中世木の松山の松明行事



牧山の松明行事はそもそも愛宕信仰の一つで愛宕神社にお供える火でしたが、江戸の中期頃より愛宕神社の祭日と地藏盆とが重なることから、盂蘭盆の行事として精霊の送り火としての意味を持つようになったと言われています。

松明は大松明・添松明・小松明があり、昭和62年に京都府無形文化財に指定され牧山地区で継承されていますが、最近の過疎・高齢化で準備作業が困難になってきました。

今年から牧山松明保存会を設立し、都会や地区外に住んでいる若い牧山出身者に呼びかけをし、現在17名の会員が出来て準備作業も順調に出来ました。

赤々と燃える松明を仰ぎながら、お百度参りをする老若男女の顔もこやかに安堵した様子でした。

(取材 吉田陽子委員)

委員ぶらり旅

澤田肇委員編



輪島の「白米千枚田」を訪ねて

国内に数多くある棚田の中でも、雄大な日本海に面して広がるこの地は非常に珍しく、植え付け直後に日本海に沈むまっ赤な夕陽に映えるこの棚田の風景はまた格別です。

輪島市役所観光課の職員の話によりますと、総耕作面積1haで1004枚、この千枚田を伝え残すために市ではオーナー制度を設けており、年会費10,000円〜50,000円、金額により収穫米5kg〜20kgを呈しています。歴代の総理大臣や著名人など多くの有志により支えられている、とのことでした。

夜は、旨い地酒をたしなみ、朝早く「輪島朝市」での買い物も又楽しいでしょう。

編集後記

我々広報委員会では、多様化する農家の少しでも地域の励みになればと「農業委員会だより」を発行して22回目になります。中程に掲載している「食と農業」は日々活動されている女性の姿を女性農業委員の感性でお届けしています。これから少しでも次世代に農業のもつ魅力を伝えることが出来ればと願っています。

(梅津義明委員)

